



Numéro265 Association Franco-Japonaise de Nara 奈良日仏協会 SEP.—OCT. 2014 9—10月合併号

芸術の秋、秋の教養講座 2014 のテーマは「印象派と浮世絵版画」

La Conférence Culturelle d'Automne 2014, Impressionisme et Estampes Ukiyoé

11月3日(祝・月)15時から奈良女子大学ほかで開催

奈良日仏協会では、2010 年度から毎年「秋の教養講座」を開催しています。講演と食事・音楽などを組み合わせた懇親イベントを奈良市内のホテルで3回実施しました。また、昨2013年度は教養講座とボジョレー・ヌヴォーを楽しむ会を一体化したイベントを宇陀市榛原のホワイエ・ヴェールを会場に開催したところです。

今年度は、講義と懇親会を連続させながらも区分し、前者は参加費不要で後者は希望者のみ有料で、という形式で実施します。講師には再度理事に就任された南城守氏にお願いしており、演題は「印象派と浮世絵版画~東西美術の造形観」です。南城氏は画家・美術家で奈良県立美術館学芸課長を務められています。



現代アートの起点とも称される印象派絵画。画家たちの多くが日本の浮世絵版画から大きな影響を受けていました。19世紀後半のフランスの芸術家達に衝撃を与えた浮世絵版画の造形性とは何でしょうか。どうぞお楽しみに。 この行事の開催日時・場所等は以下の通りです。

日 時: 2014年11月3日 (月曜日・祝日) 15:00より19:00頃 (懇親会終了) まで

会場等: 1) 講演: 奈良女子大学 LL2 教室(文学系 S 棟 2 階、参加無料)

2) 懇親会:野菜ダイニング 菜宴(参加費:会員2,000円、一般2,500円)

主催等: 主催: 奈良日仏協会、共催: 奈良女子大学文学部仏文教室

日仏文化交流において言語・文学のほか art (広義の芸術) の役割が大きいことは誰しも認めるところです。これまで、音楽と食(料理・製菓) がしばしば題材として取り上げられましたが、今回は絵画芸術を主題として「秋の教養講座」を開催することにしました。



この分野を通じた日本とフランスの文化的な関わりについて理解を深めるとともに、場所を移して飲食を楽しみながら講師を交え参加者相互の親睦が図れれば幸いです。

秋も深まる 11 月、「芸術の秋」、「食欲の秋」です。その両方を盛り込んだこのイベントにどうぞご参加ください。講演会場の席には限りがあり、定員の 54 名に達した場合は、参加申し込みの受付を停止せざるをえませんので、会員の皆様にはお早目の申し込みをお勧めします。その他の情報や申し込みの方法等は同封の案内ちらしをご参照ください。多数のご参加をお待ちします。 (事務局)

(講演者・南城守さんからのメッセージ)

「目からウロコが落ちる」というたとえがありますが、まさに美術の歴史こそ、この積み重ねによって築かれてきた もの。今回は「東西美術の造形観」を画家の視点でとらえ、創造の源泉を探ろうとするものです。

フランス文学の庭から 〈35〉

名句の花束

Quand on voulut le détacher..., il tomba en poussière. (3) 引き離そうとすると白骨は粉々に砕けてしまった (ユゴー『ノートル・ダム・ド・パリ』 1932 年)

三 野 博 司 会長·奈良女子大学教授

ミュージカルやアニメ映画のために、ヴィクトル・ユゴーというと『レ・ミゼラブル』や『ノートル=ダム・ド・パリ』などを書いた小説家というイメージが強いですが、フランス本国ではむしろ 19 世紀最大の詩人のひとりとみなされています。「今世紀最大の詩人は誰ですか」とたずねられて、ユゴーは「ミュッセが二番目だ」と答えたという話があります。自分が一番だということを遠回しに言ったわけですが、それだけ彼の自信は絶大でした。「19 世紀最大の詩人はだれですか」とたずねられたジッドが、「ユゴーだ。残念なことに」と答えたという話もあります。確かにスケールの雄大さではユゴーが図抜けているが、詩における革新性や思想性の深さ、後世に与えた影響などにおいては、象徴派詩人たちのほうが優れているという含意がありそうな発言です。

私自身はユゴーの詩にはほとんどなじみがありません。ただし、一度だけ、ユゴーの 詩と4時間にわたって格闘したことがあります。フランスの大学の博士課程は、そのむ かし DEA (Diplôme d'Éudes Approfondies) という予備課程の資格を取る必要があり

Hugo
Notre-Dame de Paris
Préface d'Adrien Goetz
Édition de Benedikte Anderson



folio classique

ました。この資格が与えられると、いよいよ博士論文の執筆に取りかかっても良いということです。博士課程の最初の一年の終わりにこの試験を受けましたが、提出された問題はユゴーの詩をジルベール・デュランの方法論を使って分析せよというものでした。デュラン自体は授業で扱われたので問題はありませんでしたが、難物はユゴーの詩でした。普段まったく縁のないユゴーの詩がいきなり目の前に出されて、それを読み取り、解釈し、フランス語で解答を書くというもので、4時間の試験時間があっという間に過ぎてしまいました。Cadaver というラテン語の題名がついた 54 行の詩でした。幸い試験には合格しましたが、その後も、ユゴーの詩に親しむ機会はまったくなくて、わたしが知っているのはいまだにこの詩のみです。

さて、ユゴーの『ノートル=ダム・ド・パリ』ですが、ここでは中世パリのノートル=ダム大聖堂を舞台に、ジプシー娘のエスメラルダをめぐって、邪欲に汚れた司教補佐、美男の王室親衛隊長、そして醜い大男の鐘番カジモドが争います。これは教会権力と王権と民衆の対立の図式でもあります。なかでも、民衆を代表するカジモドは、エスメラルダに清らかな愛を抱き、娘のほうでもいのちの恩人である彼の優しい心に気づくのです。ここに美女と野獣の主題が見られますが、とはいえ、エスメラルダの恋情は美男の隊長に向けられたままです。そして、おとぎ話とは違って、ここでは野獣が美しい王子に変身するという結末はありません。最後まで醜いままのカジモドは、死んだエスメラルダを抱きしめて、みずからも死ぬことしかできないのです。

物語の最後は「カジモドの結婚」と表題が付けられています。エスメラルダが絞首刑にかけられた日に、カジモドはノートル=ダム寺院から姿を消します。それから 1 年半、あるいは 2 年後のこと、郊外の墓地に納められた多くの骸骨のなかに、二つの骸骨が見つかります。一方は絞首刑で殺されて、ここへ運ばれてきた者の骸骨。もうひとつは、ここにやって来て、ここで死んだ者の骸骨です。そして、あとの骸骨は「奇妙な恰好で、もう一つのものを抱きしめていた」と説明されています。これこそが「カジモドの結婚」なのです。そして、最終行はこうなっています。

Quand on voulut le détacher du squelette qu'il embrassait, il tomba en poussière.

この骸骨を、その抱きしめている骸骨から引き離そうとすると白骨は粉々に砕けてしまった。

会員インタヴュー

パリ在住の会員ピエール・シルヴェストリさんが、休暇をとって久しぶりに来日されましたので、 9月8日(月)の午後、奈良市のメロウ・カフェにて近況を伺いました。

(質問1) 奈良(関西) に戻って何か再発見されたことはありますか?

(ピエール) Je suis revenu à Nara le 6 septembre et j'en suis reparti le 19, ville où j'ai habité entre 2003 et 2011. J'y ai revu mes nombreux amis et connaissances avec qui j'ai vécu tant de merveilleuses choses. Nara et le Kansaï ne changent pas à mes yeux mais cela ne m'empêche nullement de garder la même fascination pour ce qui les constitue, particulièrement leurs habitants. Aimer un pays c'est selon moi aimer sa



population avant tout. 奈良には 2003 年から 2011 年まで住んでいたので、たくさんの友人と再会して素晴らしい時間をともにしました。私の目には奈良も関西も変っていませんが、とりわけここに住む人たちのもつ魅力はいつも私をとりこにします。ひとつの土地を愛することは、何よりもそこに住む人々を愛することだからです。

(質問2) パリではどんなお仕事や活動をされているのですか?

(ピエール) Je suis réalisateur de films en vidéo (vidéoclips de rock, courts-métrages et longs-métrages de fiction ou de type documentaire). J'exerce également le métier de professeur de FLE (français langue étrangère) dans une école privé parisienne qui s'appelle l'Institut de Langue Française. Récemment, j'ai commencé à écrire des paroles et à composer la musique de plusieurs chansons.

ヴィデオカメラで撮影する映画(ロックのヴィデオクリップ、様々な短篇・長篇作品)の監督をしています。また、l'Institut de Langue Française という私立の学校で、外国人にフランス語を教える仕事をしています。最近シャンソンの作詞と作曲を始めました。

(質問3) ジャン=シャルル・フィトゥシ監督の最新作に出演されたのですね。その作品について少し紹介して下さい。

(L'x-N) Le tournage du nouveau film de Jean-Charles Fitoussi (cinéaste honoré d'une rétrospective intégrale de ses œuvres à la Cinémathèque Française cette année) s'est déroulé en deux phases. La première a eu lieu en Suisse en février 2014 et la seconde à Paris en mars-avril. Ce long-métrage de fiction a pour titre *Mitsou*. Il est inspiré par 40 images du peintre Balthus et les *Lettres à un jeune peintre* de l'écrivain Rainer Maria Rilke. Il va exister en deux versions : un opéra cinématographique dans lequel les sentiments des acteurs sont exprimés par les voix de chanteurs lyriques et un film avec des dialogues dits par les comédiens. Le jeune Balthus âgé d'une dizaine d'années peint son chat Mitsou. Il le perd et éprouve une profonde tristesse. Rilke, ami des parents de Balthus et amoureux de la mère, devient de plus en plus proche du petit garçon et s'enthousiasme pour sa peinture. Il tente de le consoler en lui écrivant des lettres pour lui fêter son anniversaire qui tombe un 29 février.

フィトゥシ監督(今年シネマテーク・フランセーズで作品回顧展開催)の新しい映画の撮影は、一回目が今年の2月にスイス、二回目が3月から4月にパリにおいて、二段階で行なわれました。画家バルチュスの40枚の画と、作家リルケの≪若い画家への手紙≫(Lettre à un jeune peintre)から霊感を受けた『Mitsou』という題名の長篇作品ですが、二つのヴァージョンが出来あがる予定です。一つは俳優の感情が叙情的な歌手の声によって表現されるオペラ映画、もう一つが俳優の声による台詞を伴った映画です。10歳位のバルチュス少年が猫のミツを絵に描くがミツを失って深く悲しみ、彼の両親の友人で母親の愛人でもある詩人リルケが少年の絵にほれ込んで、リルケは少年に彼の2月29日の誕生日を祝う手紙を書いてなぐさめる、という物語です。

Je joue le rôle de Rilke dans ce long-métrage. Je porte bien évidemment des costumes d'époque que je ne pouvais mettre sans l'aide d'une ou deux personnes sur le tournage. Le faux col de chemise et les bottines sont extrêmement délicats à enfiler. Se mouvoir et parler s'avère bien compliqué avec de telles tenues vestimentaires. Le chat occupe une place centrale dans l'histoire et comme chacun le sait, évoluer dans des décors avec un animal n'est pas aisé tant pour les acteurs que pour les techniciens. *Mitsou* a été présenté dans sa forme opératique qui dure environ une heure pour la toute première fois le 26 septembre 2014 dans le cadre du Festival Musica à Strasbourg.

私はこの長篇作品の中でリルケを演じました。撮影に際して、人の手を借りることなしには着られない当時の衣装を身にまといました。シャツの取り付け襟やブーツは、身につけるのがとても繊細な作業です。こうした衣裳を伴っていると、動くことや話すことがとても厄介です。物語の中では猫が中心的な位置を占めています。動物といっしょの舞台装置の中で作業を進めるのは、俳優にとっても技術スタッフにとっても、簡単なことではありませんでした。2014年9月26日に、ストラスブールの音楽祭の枠組みの中で、約1時間の長さの『Mitsou』のオペラ版が、はじめて上映されました(後日メールにて補足)。 (インタヴュアー:浅井直子)

紀行浮世絵をめぐる日仏文化交流あれこれ

40年来のフランスの友人ジルがこの春はじめて日本に来ました。「車で案内するから行きたいところは?」とあらかじめ訊ねておいた返事が、東海道の宿場と堅田の浮御堂(うきみどう)でした。彼がこんなところを指定してきたのは、そこが歌川広重の風景画に描かれた旧跡だからです。それというのも、彼はちょっとした浮世絵の収集家で、本物数十枚を所持しています。国芳(くによし)が良いとか、清長(きよなが)がどうだとか、浮世絵にはめっぽう詳しいのです。

東海道宿場巡りは46番目の亀山宿から始めました。広重描くところの亀山城 は京口門だったのですが、いま残るのは多聞櫓だけです。一見似た感じですが、 ジルはあんまり乗ってきません。ところが城下の旧東海道に出たとたん、彼は



ジヴェルニーにて筆者、2012年5月

目を輝かせました。天下の街道はこんなにも狭かったのか!昔のまま残る両側の民家。門口には市の観光課の配慮か、かつての店の屋号が木札に記されていました。

47番目の関宿は、古い家並みがゆるいカーブを描いて2キロばかり続く見事な景観です。かつての旅籠(はたご)を改装した食堂で山菜おこわを食べ、なんだか江戸時代の旅人になった気分で、ジルも私も満足しました。

坂之下、土山、水口、石部はほぼ素通りで、急ぎ草津宿へ。いまもそのままに保存されている本陣をゆっくり見学 したあと、湖岸を北上し、近江八景の一つ堅田の浮御堂に着いたのはもう夕暮れ時でした。湖畔の公園からは桜吹雪 の向こうにお堂がくっきりと浮かんでいました。ジルが夢に見た風景です。

こうして広重を巡るジルとの一日は無事終わりました。確かに彼は少々マニアックかもしれません。しかし程度の差こそあれ似たような浮世絵ファンはフランスにたくさんいます。自宅のサロンに浮世絵を飾っている家庭も少なくありません。日本には印象派のファンがとても多く、その証拠に膨大な数の画集が出版されていますが、フランスで出ている浮世絵の画集もこれまた相当な数です。19世紀の半ば以降、日本の文物がどっとフランスに流れ込み、なかでも浮世絵が印象派の画家たちを魅了した、あの時代からすでに一世紀半。ジャポニスムは普通のフランス人のあいだにも確実に浸透したように思えます。

周知の通りマネやゴッホに浮世絵の影響が明らかであり、ドガやロートレックにも、そしてゴーギャンにさえその影響が見られることは、いまや美術史の常識です。そしてとりわけモネにそれが顕著であることは、言うまでもありません。彼はその日本趣味が高じてパリの北西 75 キロのジヴェルニー (Giverny) というところに日本風の庭園をこしらえ、池に睡蓮を浮かべ、岸辺に柳を植えて、太鼓橋まで架けました。いまや日本の観光客も多く訪れる印象派の聖地になっています。

私たちは日本の絵画が印象派の巨匠たちに多大な影響を及ぼしたことにいい気になって、つい浮世絵を日本が独自に進化させた絵画だと思いがちですが、そうではありません。18世紀末に西洋から導入された透視画法を知らなければ、広重の「御油(ごゆ)の宿」の町並みも北斎の「深川万年橋」の遠見の富士も描かれなかったでしょう。これは独創性が文化交流によっていっそう磨かれたよい例だと思います。

同じ浮世絵でありながら、長い間日陰に置かれていたものに春画があります。男女の秘戯を生々しく、というよりもかなり誇張して描いたもので、構図といい色彩といいまた彫りや刷りの技術といい、たいへん質の高い芸術作品で、歌麿も北斎もたくさん作品を残していますが、日本では最近まで内容をはばかってたとえ画集に入れても部分をぼかしたりしていました。そのためか、日本の春画研究は世界に遅れをとってしまいましたが、フランスには先陣を切って大著を物した研究者がいました。それは『春画』(Shunga, Images du printemps, Nagel, 1964)の著者シャルル・グロボワ Charles Grosbois)です。そして彼がなんと1953年からの6年間京都の関西日仏学館で館長職にあったことは、私が学館の助手をしていた1966年ごろ図書館の司書さんが顔を赤らめながら教えてくれました。

この秋には京都でボストン美術館ジャポニスム展が開催されます。モネの「ラ・ジャポネーズ」も来るそうなので、 楽しみが増えました。 山本邦彦(会員、奈良女子大学名誉教授)

コンテ COMTE チーズのお話

秋深まり、ワインやチーズに自然と手が伸びる季節となりましたね。今日はフランスが誇る人気ナンバーワンのチーズをご紹介したいと思います!

コンテというチーズは、フランス東部、フランシュ・コンテ地方のジュラ山脈一帯で造られる大型のチーズです。その大きさはなんと直径 60 センチ、重さは 40 キロもあり、車輪を想像していただければ全体像がイメージできるでしょうか。一つ造るのに 400~500 リットルものミルクを使います。古くから厳しい山の冬を越すための保存食として造られてきたコンテですが、生産量はフランス AOP チーズの中では最大を誇ります。人気の秘密は、食べ手を選ばないその味わいにあります。食べやすいけれども複雑で奥深く、それでいて毎日食べても食べ疲れない味なのです。熟成の度合いや(最低 4 カ月の熟成、長いものでは 2 年以上のものも有り)、造られた時期や牛たちが食べたエサの違いで、そのフレーバーは変ってきます。チーズなのにフルーティーだったり、ナッツのようだったり、ロースト香を感じたり、時にはスパイシーだったり、口の中に旨味が広がっていき、もう一口!…と手がとまりません。

さて、ビストロルノールでは、そのコンテチーズを使った「コンテフェア」をしております。期間中はコンテチーズの熟成度合いによる食べ比べや、オードブル、メインディッシュといったお料理にも使って、より身近に味わっていただけるように工夫をしております。店内にはコンテの実物大ディスプレイやコンテを詳しく説明した資料、写真なども展示しております(ご注文いただいた方には、緑のベルマークがかわいいコンテオリジナルグッズを進呈しています!)。コンテ大好きな方も、まだ食べたことのない方も、ぜひぜひビストロルノールで味わって下さいね。お待ちしております。

北田由佳(法人会員)









※写真提供コンテ生産者協会、

「コンテ」の情報はこちらのサイトでもご覧いただけます: www.comte.com

ビストロルノールでは「コンテフェア」開催中 問い合わせ: **2** 0743-75-9555

第 122 回 フランス・アラカルト《ボジョレー・ヌーボーとワインを語り味わう会》のご案内

- ◆日時:2014年11月23日(日)15時~17時
- ◆会場:ワインショップ「サン・ヴァンサン」TEL&FAX: 0742-51-3888(奈良市学園朝日町 2-2 米田ビル 102 学園前駅から北へ、給水塔のある交差点を北東へすぐ右)
- ◆会費:会員 2500 円、一般 3000 円 (オードブルとワイン 3 種 [ボジョレー・ヌーボー含む])
- ❖問い合わせと申し込み先: bonjournara@gmail.com 又は FAX. 0742-62-1741
 ※定員 18 名、定員に達し次第締切り、車での来場はお控えください。

❖秋は収穫の季節です。新しいワインの収穫のシーズンでもあります。

11/23 (日) の午後 3 時~ 5 時、近鉄学園前駅近く(北口から北に徒歩 6 分)の WINE BAR "Saint Vincent" で、同店 オーナーの竹中宣人(たけなかのりひと)氏(日本ソムリエ協会認定ソムリエ)のお話を聴きながら、ボジョレー・ヌーボーを含む 3 種のワインを "ヒストリーとストーリー(フランス語ではともに histoire)"を聴きながら味わいます。(竹中さんのプロフィールはこちら⇒ http://www.kcn.ne.jp/netpress/winecellar/)

また当日は奈良日仏協会会員の米津春日(よねづはるび)リーガロイヤルホテル料理特別顧問のお話も伺います。米津 さんのファミリーとご自身の"ヒストリーとストーリー"はまさに明治以来の日本の洋食と洋菓子の発展と展開とと もにあったと言っても過言ではないのではないでしょうか?

(米津さんのプロフィールはこちら⇒ http://www.plaisirdelatable.jp/profile.html)

Mon Nara SEP.-OCT. 2014

第 121 回「フランス・アラカルト」(9/26) 参加者報告

- ★ワインとチーズを囲む会ですから、味わうだけのつもりで参加しました。と ころが、フランスで修行を積んだシェフと、その奥様であるソムリエの、チー ズに関する詳しい解説をお聞きして、それまでは話に聞くだけだった各地特産 のチーズも、本物として賞味できました。また、集った方々も皆さんフランス との関わりを大切にしておられて、とても素晴らしいことだと感動しました。 仲間を求めて、また出席したいと思います。 (青山登美子)
- ★2年前に奈良日仏協会に入会して以来、初めてこのような食事会に参加しまし た。歓談の中で、美味なワインとチーズをいただき、私には非日常的な午後の ひと時でした。ありがとうございました。 (石野倶行)



- ★バターよりチーズが好き!と早々に申込みました。同じ日仏協会の会員さんだというフランス料理店は前から気になって いました。チーズも奥が深い。種類も味もそれぞれ違うのはフランス文化の豊かさでしょう。生駒でこんなおしゃれな時間 が楽しめたこと、素敵な方々と知り合いになったこと。うれしかったです。(泉悦子)
- ★フランスでも重要な食材であるチーズをフランス料理店で試食する機会がありました。プレートの上にきれいに並べられ たチーズを食べると口の中で砕け散ったパンと絶妙なハーモニーを奏でました。オレンジ色や甘い味などチーズもこれだけ バリエーション豊かであると、ワインの良いアクセントになるなと思いました。(泉荘太)
- ★「ビストロ・ルノール」での会はとても楽しかったです。まず目についたのが目の前に置いてあったフランスのチーズの 地図です。どこでどんなチーズが生産されているかが一目でわかり、思わずコピーしてくださいと言ってしまいました。今 度来られるときにはコピーしておきますと言ってくださったので、早速またお邪魔しなくては…。(小寺順子)
- ★私の住んでいるマンションの近くで「とっても美味しい!」と評判のお店、それが今回のフランス・アラカルトのお店「ビ ストロ・ルノール」でした。お店の≪細やかなこだわりと気配りが行き届いていて、それでいて肩の凝らない雰囲気≫にす っかり魅了されて帰りました。それはきっと仲の良い御夫婦の醸し出す優しい雰囲気によるものだったと思います。お二人 の馴れ初めを聞いていて、サン=テグジュベリの「愛するということは、おたがいに顔を見あうことではなくて、いっしょに 同じ方向をみること」(『人間の土地』より)という言葉を思い出しました。(高島真貴子)
- ★大変興味深い話題で時間の経つのも忘れそうに。とくにチーズの variété には驚きました。シェフとチーズ・ソムリエの マダムの経歴に敬服しました。 (中浦東洋司)
- ★会員のみなさんとお話しながら、おいしいワインと色んなチーズを味わうことができ、本当に楽しい時間でした。お店の とても素敵な北田さんご夫妻のあたたかいおもてなしと、おふたりの貴重な経験談、チーズやワインの専門的なお話も聞け て、勉強になりました。青カビのチーズに蜂蜜やジャムを合わせて食べたのは初めての経験でしたが、これがとってもおい しくて、新しい発見でした。(野澤晴香)
- ★近所でこのように素敵なお店に出会えてとても幸せです。おすすめのワインは白、赤ともまろやかでこくがあり、さらに バラエティー豊かなチーズとマッチして本当に美味しかったです。カウンター席でメンバーの方たちとお話がはずみ、気が ついてみれば、あっという間の2時間でした。(古森和江)
- ★30 年以上も前に私が妻と 2 年弱滞在したなつかしい町クレルモン=フェラン。その町の有名レストランで 20 年前に修業 された北田さんが、奥様と共に営んでおられるレストランでのワインとチーズの楽しい会でした。けれども何にもまして「良 い話」だったのは、ヒルトンホテルで働いていたお二人の出会いの物語.....。(三野博司)



- ★皆様とお会いできてうれしかったです。今度は食事にいらしてください。 お待ちしております。 (北田浩久)
- ★チーズって面白いなと思っていただけたら嬉しいです。このような機会を いただけて光栄です。(北田由佳)
- ★「ビストロ・ルノール」は、近鉄生駒駅から 77, 78, 80, 81, 82, 84, 189 番 のバスで新生駒台北口バス停下車、徒歩1分の所にあります。カウンター10 席の小じんまりとした空間に「フランス」への愛と夢がいっぱいのお店です。 会員同士としての親睦もすすみ、幸せなひと時を過ごすことができました。 ありがとうございました。 (浅井直子)

* * * ルーアン&パリへの旅 * * * *

7月より、入会させていただきました。フランス語の方も再勉強しています。さて、この8月にルーアンとパリに20日間程、行ってきました。午前中は語学学校に通い、午後と週末は、市内観光や自由時間です。雨降りの日が多く、肌寒い中、予定したほど行けませんでしたが、それでも思い出になる日々が過ごせたと思います。ルーアンを故郷とする作家のフローベール記念館を訪れました。滞在中に読むつもりで『ボヴァリー夫人』も持参していました。また、ルーアン美術館では、モネのルーアン大聖堂の絵を見ることができ、実際の大聖堂の中も見学できたので、なお一層印象深いものとなりました。週末には、学校の遠足でオンフルールとドーヴィルへ行きました。オンフルールの港町は小説で読んでいたとおり、いい雰囲気があり、Colombage の家並は可愛らしいものでした。エトルタでは、モーリス・ルブランの家も訪れました。

パリでは、オルセー美術館、ヴェルサイユ宮殿、エッフェル塔に行き、どれも良かったのですが、最終日にホテル近くのモンパルナス墓地を訪れたところ、白髪の Monsieur に声をかけられ、墓地を案内していただくことが出来ました。彼は亡くなられた奥さんの墓をみて回り、私は説明を聞きました。墓石の上に地下鉄の切符がたくさんあることや、墓石に付けられたキス・マークのことなども…。1時間の散歩でしたが、思わぬ出会いであり、楽しいお話でした。また次回フランスに行くためにも、フランス語を続けていきたいです。 (西久保美芳)



オンフルールの港

14

世界の中での日本語の姿一我が国語のより良き理解のために



小生定年から数年間にわたって外国人(東南アジア人)に日本語を教えた経験がありますが、いちばん迷うのは表記の上での文字選択です。日本語表記は西洋語のような確立された正書法(オルトグラフ)があるわけでなく、個人毎に千差万別です。これが英語圏などの住民にとっては不可解な事実なのは理解できます。例えば小学校だけでも「こっせつ」「こっ折」「骨折」と学年が変われば表記がかわるのです。年齢表記でも「才」は「歳」の字を学ぶまで使用が認められているのです。かつて日本語の公用語をフランス語にしては…と提案したのは志賀直哉でした。彼はその発音に魅せられて言ったのか、日本語表記の多様性に嫌気がさして極論を出したのかは知れませんが、古くから知識人にとって正書法の一定しない言語は「未開」であるという迷信があります。それが「カナ文字主義」「ローマ字主義」を生むこととなりました。或る大商社では社内の公文書や案内をカタカナ表記に統一していた時代があります。これはワープロの発明とともに廃止されるに至りました。さもなければ日本の商社・企業がそれに習うことになり一つの「文化大革命」にまで暴走したかも知れません。言語学者は言うでしょう一signifiant は signifié (実体) に対して単純に対比されるべきだと。日本語表記における選択肢の多様性、複雑さは日本語学習者の記憶能力の浪費であるばかりでなく、日本語の国際化あるいは国連公用語への発展にとって足枷となりはしないか心配しているのです。

👯 👯 🐪 Mon Nara 20 周年記念号を読んで 🐈 👯 🐈

モンナラ 20 周年記念号は、一色さんや須田先生のことなど、今やこの世の方ではない人々のことを思い返すよすがとなりました。そしてふと、松元秀之さんという、兵庫県警のトップにおられた方のことも思い出しました。東京帝国大学から内務省に入られて当時の派遣知事をめざしておられましたが、戦後、内務省解体とともに警察に移られたそうです。四十九日には、われわれ奈良日仏協会のメンバーをご招待くださり、息子さんが「父が晩年にこれほどフランス語にのめりこんでいるとは知らなかった、そのフランス語仲間を招待するのがなによりも供養になると思った」とおっしゃっていたのが印象的でした。また松元さんは、「フランスわが愛」と題したフランス語のエクスポゼを「フランス語クラブ」でなさって、そのテキストはお亡くなりになった時に、モンナラに掲載されました。その中で、旧制一高の授業でアラン・フルニエの『グラン・モーヌ』をフランス語で読み通した時の感動を熱く語っておられました。わずか数年の在会でしたが、理事会でも活躍なさったと伺っています。義務を果たし、人生を楽しむ、高貴な方でした。 (武田裕紀 元会員、追手門学院大学准教授)

第35回 奈良日仏協会シネクラブ例会(10/26) 案内

(日時) 10月26日(日) 13:30~17:00(会場) 奈良市西部公民館5階第4講座室 (プログラム) 『隣の女』 (La Femme d'à côté, 1981 年, 107 分)

(監督) フランソワ・トリュフォー

(参加費) 会員無料 一般 300 円 (懇親会) 例会終了後「味楽座」にて (問い合わせ) tel. 0743-74-0371 Nasai206@gmail.com (浅井)





2014年10月21日フランソワ・トリュフォーが亡くなって30年になります。今回はトリュフォー特集として『隣の女』(1981)をとりあげま す。かつて深く愛し合っていたベルナールとマチルド(ジェラール・ドパルデューとファニー・アルダン)が破局し、それぞれ別の相手と結 婚して幸せに暮らしていたものの、その 2 組のカップルが偶然、グルノーブル郊外の家に隣人として暮らすことになります。昔の恋人同士が 再会して互いの眼差しが交錯した瞬間から、何か不吉な予感がただよい、一見、幸せで平穏な日常の暮らしの中にサスペンスが生じます。ト リュフォー自身の生きた経験が台詞に反映されている、激しい運命的な愛を描いた作品。そんな台詞の一部を紹介しましょう。(マチルド) あなたが8年前に言ったことを覚えてる? あなたがそれを言ったとき、わたしはとても不幸になったわ。「恋愛の物語には、最初と中間と、 そして…」 « Les histoires d'amour doivent avoir un début, un milieu... (ベルナール) 「終わりがなければならない」... et une fin. »

……事務局

≪2014 年度第3回理事会報告≫

時:2014年9月25日(木)、 $15:00\sim17:30$ 、場所:菜宴 常者:三野、野島、濱、浅井、井田、仲井、中浦、南城、樋口、藤村、 藤本(オブザーバー)

議題1. 前回理事会以降の活動を振り返る

- 1) フランス・アラカルト:7月22日 第120回 (既報)
- 2) 奈良日独協会 Bierabend (ビールのタベ) 7月 26 日 大安寺にて、 三野・野島・濱が参加。

議題2. 当面の行事・活動計画

1) フランス・アラカルト:

9月26日(金) 第121回 Mon Nara No.264 記事の通り実施予定。 11月23日(日)第122回「ボジョレー・ヌーヴォーとワインを語り味 わう会」、参加費等を見直し実施方針を承認。内容・案内は本誌に掲載。 この議題に同席した藤本会員(アラカルト会計担当)より会計の引継ぎ・ 報告に関する問題提起があり、議論が交わされた。

- 2) シネクラブ例会: 10月26日(日) Mon Nara No.264 記事の通り実施 予定。
- 3) 秋の教養講座 2014:11月3日(月・祝)、実施方針を承認。内容・案 内は本誌に掲載。

議題3. Mon Nara 次号の編集概要、発行予定等を確認。

議題4. その他 秋篠音楽堂からのリサイタル広報協力要請を承認。 HPの更新。次回理事会日程。

会員通信∞∞∞∞

Mon Nara 20 周年特別号につい て、会員の皆様から暖かいメッセ ージを頂いております。今回投稿 が間に合わなかったという方も、 この Mon Nara 誌上で「私とフ ランス」に関するエッセイをこれ からも随時掲載していきますの で、ぜひ原稿をぜひお寄せくださ い。お待ちしております。



後 記 源氏物語「若紫」(第五帖)から、一般にもよく知られている断章を仏語訳と対照しながら拾い読みしてみました。 :「何ごとぞや。童女と腹立ちたまへるか」とて、尼君の見上げたるに、すこしおぼえたるところあれば、「子なめり」と見たまふ。「雀の子を犬君が逃がしつ る。伏籠のうちに籠めたりつるものを」とて、いと口惜しと思へり。このゐたる大人、「例の、心なしの、かかるわざをして、さいなまるるこそ、いと心づきなけ れ。いづ方へかまかりぬる、いとをかしう、やうやうなりつるものを。烏などもこそ見つくれ」とて、立ちて行く。

---Que se passe-t-il? Vous vous êtes fâchée avec les petites? dit la dame nonne qui leva les yeux, et comme il y avait entre elles un air de ressemblance, il se dit que ce devait être sa fille. ---Mon petit moineau, Inuki l'a laissé échapper, celui que je tenais enfermé dans la corbeille, dit l'enfant, l'air dépité. Et l'une des femmes qui se trouvaient là: ---Cette écervelée n'en fera jamais d'autres! Où donc s'en est-il allé? Lui qui s'était si gentiment laissé apprivoiser! Et si quelque corbeau le trouvait? Dit-elle, et elle sortit.

光源氏18才。この帖は、静かな山里の夕暮れの中で展開します。恋の冒険は「病」の治療からはじまります。治療の合間に山里を散策していると、偶然 か、源氏が思いを寄せる藤壷宮にそっくりな少女を垣間見てズキンと感じるところがありました。少女はそのとき白い長じゅばんに「山吹かさね」(橙色と茶色 の襲ね着)を羽織って、あどけなく祖母のところへ駆けてきました。さてこの少女が後の正室である紫の上に成長します。源氏は「苗木」を見て将来の花木 を見通すことに長(た)けていたようです。紫の上の登場場面、仏訳と対照してみると、より鮮明に感じられる面があるようです。 (Nakaura)

- ▶当協会では<mark>会員を募集</mark>しております。お申込み、お問合せは下記事務局まで。
- ▶本誌への投稿、特に新鮮で多様な話題、ホットなフランス情報などを歓迎します。誌面の都合で意味を極 力変えずに表現を変えさせていただくことがあります。会員通信欄もご活用ください。

締切日:次号は11月30日が原稿締切日です。

Mon Nara septembre—octobre 2014 9-10 月合併号 numéro265 奈良日仏協会 Association Franco-Japonaise de Nara

HP: http://www.afjn.jp E-mail: afjn_info@kcn.jp FAX 0742-62-1741

〒630-8691 奈良中央郵便局 郵便私書箱第30号[郵便物のみ] ◎発行責任者:三野博司